

農業



令和6年7月号

会誌 No. 1719

目次

巻頭言

梅雨空に思う 吉田 岳志 3

論壇

訪日観光客と日本食 春見 隆文 4

農業懇話会

畜産業の成長と家畜感染症との闘い

—畜産業の未来にエールを送る— 熊谷 法夫 6

地域セミナー 秋田

不確実性の時代を生き抜く雇用型経営 23

最高の人生を目指した仕事を—後悔しない働き方— 井上隆太郎 23

実績報告 三浦 幸・奥山 和宣 30

パネルディスカッション 35

食を楽しむ

各地のソウルフードと合わせて日本ワインを味わう 天越 千愁 38

研究の最前線

果樹の低温積算時間表示システムの開発 杉浦 裕義 39

農業・農村の現場から

地方・農村部における農作物などの盗難被害と

その対策の現状と課題 鈴木 あい 45

世界の農業は今

- 果物輸出大国チリの歩み……………村瀬 幸代 51
—約半世紀にわたる成長の軌跡と持続的成長への可能性—

私の経営と志

- 福井県坂井市でネギ作経営……………内江 元泰 57
—私の農業の見方—

農家の気持ち

- 旬をつかまえたくて……………福島 沙織 59

農政情報

- …………… 60
大日本農会だより…………… 61
編集部から…………… 61
大日本農会前副会長・西郷正道氏を悼む…………… 62

表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

雪の恵みを生かした稲作・^{ようり}養鯉システム (新潟県中越地域：長岡市，小千谷市)

新潟県の長岡市と小千谷市にまたがり「ニシキゴイ発祥の地」として知られる，かつて二十村郷^{にじゅうむらごう}と呼ばれたこの地域は，魚沼丘陵の北部に位置し，標高500mほどの山間に集落が点在する日本有数の豪雪地帯です。

ここでは限られた山間の土地を有効活用するため，山の斜面に作られた棚田で稲作を行うとともに，冬場のタンパク源を自立的に確保する目的で食用のマゴイを飼う暮らしが行われてきました。この食用として飼われていたマゴイから突然変異により出現した色ゴイがニシキゴイの始まりとされ，現在では世界に誇る一大産業へと発展しています。また，この山間の豪雪地帯という厳しい環境の中，血縁集団「マキ」を中心とした地域コミュニティにより，横井戸の掘削や雪解け水の貯水を行うことで，稲作や養鯉を営む上で必要な「水」を確保する伝統的な水利システムが高く評価され，2017年3月に日本農業遺産に認定されました。現在でもこのシステムは稲作・養鯉と密接な関係を持ちながら，地域住民の手によって大切に受け継がれています。

(長岡市農林水産部農水産政策課 荒木 舞利)